

2023（令和5）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493100455	事業の開始年月日	平成30年6月1日
		指定年月日	平成30年6月1日
法人名	ヒューマンライフケア		
事業所名	ヒューマンライフケア下永谷グループホーム		
所在地	(233-0016)		
	神奈川県横浜市港南区下永谷2-34-14		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和5年8月16日	評価結果 市町村受理日	令和6年1月16日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

地域との交流には、力を入れております。自拠点では、駐車場を利用して近所の方を招待して夏祭りを行ったり、移動販売者を自拠点の駐車場に来て頂いたりご利用者様と地域の方々との交流に繋がっております。さらには、包括の方や施設への入居や見学を検討している方へ自拠点のフロアを使って、e-sports体験も行っております。e-sportsは、高齢者の方でも簡単に行えるゲームです。認知症予防にも期待できるとの事で、色んな方々を巻き込んで盛り上がる施設を目指しております。施設でのイベントの他にも近くの神明社や小学校等のイベントへも積極的に参加しております。小学生たちによる屋台や出し物の見学や神明社での子供神輿や盆踊り大会へも顔を出して季節感も味わいながら交流への力は積極的にいれております。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和5年10月20日	評価機関 評価決定日	令和5年12月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、市営地下鉄ブルーライン「上永谷」駅あるいはJR「東戸塚」駅からバスに乗車、「中永谷」バス停下車後徒歩7分ほどの高台の住宅地にあります。敷地内に同運営法人の小規模多機能型事業所を併設し連携をしています。

<優れている点>

開設当初から地域とのつきあいを積極的に行なっています。地域の人の買い物手段としてもらえるよう、事業所の駐車場を移動販売車のために提供しています。地域の人と一緒に買い物をする利用者もいます。今年度再開した事業所の夏祭りには地域の人から手伝いの申し出があり、準備のほか楽器演奏で交流をしています。併設の小規模多機能型事業所と協同で企画したe-Sports（コンピューターによるスポーツ競技）体験会には町内会や地域包括支援センター職員の参加を得ています。また、日々利用者と信頼関係を築く中で本人が発する言葉とは裏腹な本音があることを職員は理解しています。1対1で関わる入浴介助時に本音がこぼれ出ることが多く、大切な時間としています。家族の意向についても複数家族から面会についての意見が出ていたことを受け、時間、場所等制限を設けない面会を再開しています。

<工夫点>

職員からの利用者ケアに関する意見や提案は、「まず実行」の姿勢で取り組んでいます。日々の申し送りやカンファレンスで話し合いながら本人に合ったケアになるよう継続や改善を重ねています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	ヒューマンライフケア下永谷グループホーム
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	チームワークを何よりも大事にしております。情報共有は常にしながら開けた施設になるように駐車場を開放して、様々なイベントに活用しております。	3年前の管理者の交代時には全職員で話し合いましたが、開設時につくった事業所理念を継続することで決定をしました。会議の時には「笑顔で挨拶」「チームワーク」の大切さについて管理者の思いを伝え、皆で実践につなげるようにしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	駐車場を提供することで、子供たちによる太鼓の演奏会や子供神輿の休憩所、移動販売等地域との関りは増えている。	開設当初から地域とのつきあいを積極的に行なっています。今年度再開した事業所の夏祭りには地域の人から手伝いの申し出があり、準備や楽器演奏で交流をしています。e-Sports体験会には町内会や地域包括支援センター職員の参加を得ています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議や様々なイベントを通して施設の中を公開したり閉鎖的な空間でない事を知って頂く。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	包括の方や町内会長との意見交換によって、地域のイベントへの参加に繋がったり、他の施設での活動内容を教えて頂き活用できるような事を反映する。	併設の小規模多機能型事業所との合同の運営推進会議は、今年度対面式で開催し、事業所の活動状況報告をしています。メンバーの町内会長や地域包括支援センター職員から神社の夏祭りの誘いがあるなど、地域イベントや情報の提供を受けています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	利用者の認定更新や区分変更等18名のサービス計画を伝えると共に意見を頂きながら信頼関係を築けるように取り組んでおります。	港南区の高齢障害支援課に運営推進会議の議事録を送付し、事業所の実情を伝えていきます。利用者担当の区のケースワーカーとは必要に応じての電話連絡のほか、2ヶ月ごとの訪問があり連携をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	研修を継続的に実施しながら各スタッフに理解と知識をつけています。虐待や身体拘束に関しては、事例を元にスタッフの考えを聞き取り、対応方法を検討する事も行っております。	全職員が身体拘束廃止委員会のメンバーとなり、事業所全体で身体拘束についての話し合いをしています。委員会に欠席の場合は議事録を閲覧することをルール化し意識の共有をしています。定期的な研修も行ない、身体拘束をしないケアの意識を深めています。身体拘束と虐待に関し、事例検討を行なうこともしています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修を通じて、身体的な虐待だけでなく、精神的な虐待であったりと普段から何気ないケアにも虐待に繋がる可能性があることを情報共有しながら学んでおります。	年2回「拘束・虐待チェックシート」で自己の振り返りをしています。集計は法人が行ない、結果報告を受けています。人権・虐待防止の動画研修も年2回実施し職員は知識を深めています。「虐待防止委員会」設置に関しては現在法人で検討をしています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	実際に生活保護の方がご利用中なので、後見人の方との話し合いやどうゆう必要があるのかをカンファレンス等を通じて学ぶ機会を作っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は、一方的に話していくのではなく、ご家族様のペースに合わせて理解して頂けるまで説明させて頂いております。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	会社の方針として、本社の相談窓口を設置しており、施設へ言いにくい事や要望に対して対応しております。もちろん施設内でもお手紙や面会等を通して様々な声を聞けるような対応しております。	事業所以外に法人相談窓口があり、意見や相談をすることができます。複数家族から面会についての意見が出ていたことを受け、時間、場所等制限を設けない面会を再開しています。外部評価の家族アンケート結果は職員と共有し、意見を生かすようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的な面談や事業所会議を通して、スタッフや外部からの意見を参考にしながら運営に繋げております。	管理者は現場業務に入りながら職員とコミュニケーションをとっています。利用者ケアに関する意見や提案はまず実行の姿勢で取り組んでいます。毎週のブロック長の訪問時には、直接職員の意見を聞くこともあり、風通しの良い環境をつくっています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員との面談を通して各スタッフに目標がございます。それに向かってプランや計画を立てて、少しずつ労働時間の中で達成できるような環境にしております。	職員は自己目標を立て、それに沿って年2、3回管理者面談をしています。行なった人事評価は本人に示していません。働きやすい職場環境のため、休憩室・休憩時間の確保、制限なしに希望休を取り入れたシフト作成や有休の取り方などの配慮をしています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	月1回の会議やカンファレンスに加えて研修も行っております。個々のスキルアップはもちろん。ベテランのスタッフが積極的に事例を元にケアへの情報共有を行っております。	運営法人で年間研修を決め、職員のスキルアップに努めています。資格取得の推奨、本人希望による非常勤から常勤職員採用も行なっています。新入職員には1ヶ月程度のOJTを行なっています。その後は管理者との面談で業務について確認をしています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	オムツ業者と連携し排泄介助の研修、訪問歯科と連携して口腔ケアの指導、リモートや講師を招いて他の拠点での成功事例を参考にする事などを行っております。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	計画作成担当者を筆頭にスタッフ間でケアカンファレンスを行い、安心したケアに繋げる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用者様はもちろん。そのご家族様からの要望にも積極的に耳を傾けております。一週間が立った段階で、電話にて様子の報告。スタッフからやご家族様からの要望を改めて確認して、安心した環境を目指しております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族様からの情報を元に最初はケアへのプランを立てますが、実際の経過されている様や訴えに対して直ぐに対応できるようにする。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	あくまでもお客様という考えはなくならずケアを行っております。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	お客様の声です。ご利用者様の声も大事ですが、何事もご家族様の要望や許可等が必要となって参ります。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人様の大事にしている空間や時間等は最優先に考え、他者とのトラブルを避けるために支援に繋げて参ります。	家族のほか、昔の知り合いの面会があります。併設している小規模多機能型事業所利用からグループホームに移る利用者もおり、環境が大きく変わらない利点があります。自宅に泊まる、墓参り等馴染みの場所への外出は家族対応で支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	グループホームは、あくまで共同生活の場でございます。レクや食事等孤立なくすべての方がスタッフ含めて支えあう空間を目指しております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了してもなお、現在でもレクリエーションやイベント時には、見学にいらしてくれたり必要な物資を提供してくれたりと交流は続けております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	定期的な面談や事業所会議を通して、スタッフや外部からの意見を参考にしながら運営に繋げております。	利用者と信頼関係を築く中で本人が発する言葉とは裏腹な本音があることを職員は理解をしています。1対1で関わる入浴介助時にこぼれ出る本音を見逃さず汲み取ることに努め、大切な時間としています。本人から車いすの変更希望があり、ケアプランに反映するといったこともあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	共同での生活の場ではございますが、1人1人やりたい事や趣味は違います。この時間を大切にしたい空間も作っております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	皆1日の行動パターンは違います。ゆっくりとご利用者のペースに合わせた支援を行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護はチームケアだと思っております。日々ご利用者様はもちろん。ご家族様の要望も含めて情報共有をしっかりと行っていく。会議やカンファを通りして利用者様への対応をアップデートをめざして	本人と家族の希望や意見を把握し月1回のカンファレンスで反映しています。ケアプランは短期は3ヶ月ごと、長期は6ヶ月ごとに作成しています。会議に出席できない場合には、事前に意見を提出してもらったり、結果を回覧したりするなど職員全員で作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録も紙ベースからデジタルへ変更となることで、作業効率はあがっております。その分は、ご利用様のケアへの時間となっております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	医療行為が必要になった場合でも直ぐに病院への入院という選択肢ではなく、グループホームで出来る限りの対応を行う。例えば、酸素吸引や点滴が必要な方に対して、毎日の訪問看護をつけることでグループホームで過ごしていける。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	本人様の残存機能を尊重して日々の生活習慣の中で力を発揮頂いております。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	24時間の訪問看護医療機関と連携しております。何事も少しでもきになる変化があれば連絡して相談に乗っております。	提携医は月2回、歯科医師・看護師はそれぞれ週1回の訪問があり、24時間連絡や相談ができる状態にあります。提携医以外の診療科目に関しては原則としては家族対応ですが、職員が同行することもあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	相談はもちろん。介護士では、難しい対応にも積極的に任せしております。24時間の中で、いつでも連絡に対して、直ぐに対応策を考えて下さります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院側や施設側からの情報は、直ぐに連携する医療機関へと情報を共有しております。何かあった際に、直ぐに対応出来るように日々さまざまな関係者とは連絡を細かく取っております。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	連携する医療機関からの方針が出た際にしっかりとご家族様と面談と相談を重ねて、最終的にご家族様が納得のいく形で終末期を迎えられるように多様な支援方法を考えております。	看取りの実績があり、家族の希望により最期の時間を一緒に居室で過ごした事例もあります。状況の変化に応じ医師や職員の連携を図りながら対応し、その際には本人や家族の意思を確認しています。職員に対しては終末期のケアに関する研修があります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時の対応フローは普段からスタッフには、会議や研修でお話をさせて頂いております。各スタッフが連携する医療機関へ相談、連絡できる体制となっております。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の避難訓練を通して、火災や水害等の避難ケースを考えて、消防隊の方との協力を得ながら研修を行っております。備蓄品の確保と管理も行っております。	芹が谷消防署の協力を得た防災訓練では消火訓練などを行っています。近隣高等学校と協力関係にあり災害時の避難場所となっています。備蓄の食料や飲料水は3日分保管し、発電機やランタン、衛生用品などもあります。来年度義務化のBCPは法人で作成済みです。	夜間の災害についてマニュアル作成のみになっているので、実際に夜間の避難訓練を実施することが期待されます。また最新の防災非常用備蓄品のリストを作成することが期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	お客様に対しての言葉かけと人格を尊重した対応を心がけております。	呼称は苗字に「さん」付けを原則としてお客様としての接遇に努めています。新人職員には実際に車いすに乗って介助を受ける体験などを通し、接遇の研修をしています。個人情報の書類は鍵のかかるキャビネットに入れてあり常に施錠しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	タイムスケジュールにとらわれず、利用者様からの声を大事にしながら意見を汲み取っております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	あくまでもお客様という考えはなくなりケアを行っております。利用者様ファーストで行動をしております。個々のペースに合わせた支援に繋がっております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その方の好きな洋服やおしゃれをスタッフの声掛けを入れながらその方の意見を尊重して支援しております。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の調理では、盛り付けやお茶くみ、皿洗いや皿拭き、配膳等皆で協力しながら他者とも交流する機会となっております。	手の込んだ献立のお楽しみ食事会を2ヶ月に1回催しているほか、ファストフードや海鮮丼を出前するなど食事を楽しむ機会をつくっています。食事量が減った利用者の好みを把握し、白米をパンに変更するなど、身体の状況に配慮した食事形態で提供しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎日の栄養バランスや水分摂取に関しては、連携する医療機関とも相談の上、一日の摂取量を平均できめております。その方に合わせたむりのないような習慣に繋げております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	出来るだけご自身で行って頂き、スタッフが口腔状態を再度確認して清潔な口腔を保っております。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	その方の排泄パターンを各スタッフ間で情報共有を行いまして、出来るだけ睡眠の妨げとならないような形で排泄介助にあたっております。	排泄チェック表と水分チェック表で排泄パターンを職員間で共有しています。パッドを利用している利用者は2時間おきに交換を行い、自立で排泄できる利用者には誘導も行います。希望があればポータブルのトイレを居室に配置して夜間の排泄を支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	薬に頼るのではなく、水分摂取や運動を行う事で、自然に排泄できるように支援しております。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週の中で、ご利用様の時間や曜日に合わせて入浴を行っております。	入浴は週2日ですが希望があれば追加で入浴することができます。一人入るごとに湯船の湯を全て入れ替えて衛生的にしています。利用者が入浴剤を選んだり、季節によっては柚子を入れたりするなど寛ぐ工夫をしています。希望があれば同性介助も行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	1日を通して、ご利用者まの願いを尊重して休息の時間をていきょうしております。あくまでも、昼夜逆転とならないような形で支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の変更や退院時には、連携している調剤薬局様や医療機関からの申し送りを全スタッフで情報を共有致します。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	その方の生活歴や過去の嗜好品や趣味をご家族様からの意見も取り入れて、1日の中で活かした役割を考えて支援に繋げております。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ご家族様の協力も得ながら1日の中で散歩や外気浴に努めております。	天気がよければ毎日周辺の散歩に行っています。2階のベランダにテーブルとイスを出してお茶を飲みながら外気浴することもあります。新型コロナウイルスの影響もあり、事業所全体での遠出の外出はしていませんが家族と外出や外食を楽しんでいる利用者もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	毎週金曜日での移動販売での購入や理美容など本人様のお小遣いの中で本人様の考えで購入したり支援しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族様からの希望もあれば、ご利用者様からの希望にも24時間何かあれば連絡できる体制でございます。毎月ご利用者様の情報をお手紙にてお渡ししております。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間では、清潔感を大事にトイレ掃除や床掃除には、しっかりと夜勤中に行い、カーテンも朝や昼、夜と一日の流れが分かるように生活感や季節感に配慮しております。	リビングに利用者の馴染みのぬいぐるみを置いたり、利用者の制作物やスキなどの季節を感じるものなどを飾っています。明るく解放感があるリビングの大きい窓や、床暖房を設置することで、過ごしやすい環境を整えています。室温は利用者の様子を観察しながら、実際の体感温度から適宜調整しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	普段からのスタッフ間でのケアカンファや情報を共有することで、最適な席の配置を考えております。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	昔大切にしていた仏壇や持ち物やアルバムなどを部屋に置いたり、本人様が過ごしやすい空間を提供出来るように工夫して支援に繋げております。	備え付けのタンス・ベッド・クローゼット・カーテン以外は利用者の好みのものを置いています。ベッドの配置は車いすの導線を確保したりエアコンの風を避けるなどの配慮をしています。夜間は2時間おきに利用者の様子を観察しながら室温を調整しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	個々でケアプラに基づいて役割やお手伝いの中で、残存機能を使用していく活動は続けております。		

事業所名	ヒューマンライフケア下永谷グループホーム
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	スタッフ全員が、チームワークを大事にして、何事にも情報共有することで開けた施設を目指しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	毎週金曜日の訪問セブン販売では、利用者はもちろん。地域の方々との交流する機会になっております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	様々な地域のイベントに参加したり、自施設の駐車場を開放してイベントを企画することで、地域の方々へ認知症の方々との交流する機会や学ぶ機会になっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	包括の方や町内会長との情報交流をすることによって、イベントへの参加や企画に繋がっている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	毎週金曜日の訪問販売時に包括の方との情報共有を行う事によって、入居の相談やケアの相談を双方で行う事が出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	研修を継続的に行いながら、スタッフへ情報共有をしていく。事例を参考に各スタッフが身体拘束について理解を深め、ケアに繋げている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	拘束と同様に研修を継続的に行っています。スタッフへも会議等で共有して、事例を元に虐待への理解を深めてケアに繋げております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	生活保護や後見人を使用しているご利用者がいるため、普段から会議等でスタッフ含めて理解する機会を作っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	しっかりと時間を使い、ご利用者様のご家族様には、疑問点が残らない形で説明をして納得して頂いております。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	フィールズ様はもちろん。会社からのアンケートやご家族様からの意見をスタッフ間で共有してケアや運営に繋げていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	面談を年に数回行っております。個々で話しにくい内容については、ブロック長が対応するなど、話しやすい環境づくりに努めております。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	面談の中で、各スタッフで目標を設定しております。目標に向かって、努力や実績を判断して、給与に反映しております。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	無資格や無経験の方でも、時間と日にちをかけて独り立ちできるまでサポートをしていく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	運営推進会議はもちろん。移動販売やイベント時に包括の方々との交流を積極的に行っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご利用者様のご意見にはしっかりと耳を傾けて、ご家族様と相談しながら要望に応えられるように努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様には、お手紙や連絡を常にする ことで、ご利用者様のご様子や困り ごとに迅速に対応しております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族 等が「その時」まず必要としている支援を見極 め、他のサービス利用も含めた対応に努めてい る。	計画作成担当者を軸にスタッフ間で 日々の様子を観察しながら最適な支援 方法を探っております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置か ず、暮らしを共にする者同士の関係を築いてい る。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置か ず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本 人を支えていく関係を築いている。	ご家族様とスタッフが信頼関係を築く ために、スタッフ自信で様子の連絡 やお手紙を出して関係を築いておりま す。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めてい る。	ご家族様からご助力を頂きながら、ご 本人様が気持ちよく過ごして頂けるよ うに環境整備を行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	グループホームでは、少人数ですので、孤立しないように役割やスタッフからの声掛けをしながら全体で交流する機会を作っております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了していてもイベントの参加を促したり、協力いただいたり双方が必要に応じて助け合っております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアマネが普段からお話を伺いながらその方の最善なケアに繋げております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴はご家族様からご助力頂き、その方が過ごしやすい雰囲気づくりに努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ケアマネを軸に会議やカンファレンス等で、スタッフ間で情報を共有しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアマネの意見やスタッフの意見を聞きながらご家族様と相談致します。意見や現状を参考に計画を作成しております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	少しの変化や行動でもスタッフ間で情報共有を行っております。会議時にケアマネを交えて介護計画をアップデートしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	少しでもお役に立てるような、困難時にもご家族様と会話を重ねながら支援に繋げております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	その方の生き方を大切にして、地域との方々と交流する機会を作りながらその方が過ごしやすい環境になるように支援しております。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご家族様と密に大倉クリニックと合わせて関係を築きながらご家族様の希望に沿った医療に繋げております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	スタッフ一同で看護職員等からアドバイスを参考に、個々の利用者様へ適切なケアに繋げております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院側のワーカー様と直ぐに連携して、大倉クリニックへと報告と相談をおこないます。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご家族様のご希望に出来るだけ沿えるように医療行為も含めて、施設で行える範囲内で支援しております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	研修や事故が起きた際に看護職員がスタッフへ指導を行ったり、応急措置について会議で講師をして頂いております。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	スタッフ一同、避難訓練を重ねて芹が谷消防様のご協力を得ながら、避難対応について身に付けております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	各スタッフがスピーチロックを意識した形で、丁寧に声掛けを意識しております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご利用者様優先で、出来るだけご本人様の主張を尊重しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員ペースではなくあくまでもご利用者様のペースで、希望に添えるように支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その方の尊厳を大切にしております。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事を楽しみにされている方が多くいます。盛り付けから片付けにも参加頂いております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	各ご利用者様には、水分摂取への課題はございますが、色々な形でアプローチをして栄養や水分量を確保しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	本人様の口腔ケアを観察しながら、磨き足りない所を声掛けをしながら補助を行う。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄のパターンを理解して排泄に習慣をつける。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	薬での解決ではなく、自然に運動や水分摂取を利用して排便に繋げております。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	曜日問わず、午前午後もご利用者の希望に合わせて入浴を行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	休憩時間に制限はなく、あくまでも本人の希望を尊重して提供しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	往診時には薬が変更になることが多いです。スタッフ間で申し送りして情報を共有しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	その方の役割を理解した上で、その方が過ごしやすい環境になるように努めております。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外気浴はほぼ毎日雨が降らない日は数分でも出て地域とのかかわりにもつながっております。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人様のご希望であればお渡ししております。ご家族様への許可は頂いております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	24時間いつでもご家族様に許可が頂ければ電話や手紙のやり取りはしております。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	清潔感を出して、四季折々のフロアづくりを目指しております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	その方の過ごしやすい場所や相手を把握して、思い思いに過ごせる空間をつくっております。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室はご家族様やご本人様の好きなような配置にしております。日々アップデートしております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	何事もスタッフが行うのではなく、自立を目指し、声掛けをしながら役割や出来ることを行って頂いております。		

2023年度

事業所名 ヒューマンライフケア下永谷グループホーム

作成日： 2024 年 1 月 9 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	Ⅲ	災害対策について、避難訓練だけでなく地震や水害、火災等の知識	定期的にあらゆる想定の中で訓練を行いながら災害時に備える	全職員が災害に関して、理解と知識をつけて日々の訓練からスムーズな行動力をつける。それと、日々の近隣の方との交流から協力関係を築く	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月